

好きなことよりできることを重んじる世界観が就職活動に与える影響

^a 鈴木夏佳, ^b 西川昇吾, ^c 森洋茉

要約

本研究では、好きなことよりできることを重んじる世界観が就職活動に与える影響について研究を行った。「好きなことよりできることを重んじる世界観をより強く持っている人の方が、就活において自分の強みをより重視した選択をする」という研究仮説を立て、大学生を主な対象として実施したアンケート調査で得られた件の有効回答について単回帰分析を行った。結果として、研究仮説を検証する単回帰分析 25 本のうち、約 52%にあたる 13 本で研究仮説に整合的で有意水準 5%以下で有意な結果を得ることができた。

JEL 分類番号 : D9

キーワード : 世界観、好きなことよりできることを重んじる世界観、強みを生かした選択、就職活動、AI

a 鈴木夏佳 慶應義塾大学経済学部 学部生 natsuka.pal07@keio.jp

b 西川昇吾 慶應義塾大学経済学部 学部生 westsho.1028@keio.jp

c 森洋茉 慶應義塾大学経済学部 学部生 woods0252@keio.jp

1. 序文

近年 AI の台頭により、我々の暮らしは大きな影響を受けている。例えば教育では、AI が一人一人に合った独自の教材を作成することで、学習の個別最適化を実現する一助となっている。また、データ分析の分野では、AI が大量のデータからパターンや傾向を抽出するのに役立ち、ビジネスの意思決定や市場分析などに AI が活用されることで、データサイエンティストやアナリスト等の需要が新たに生み出されている。しかし一方で、一部の仕事はその担い手を AI に譲ることで変化や消滅を強いられる可能性もある。では、今日において我々はどのような基準で自らの仕事を決めていくべきであろうか。本論文では「好きなことよりできることを重んじる世界観」が、その一つの基準になり得ると仮定し、就職活動の意思決定との関係を調査することとした。この世界観を今後の仕事選びの基準となり得るとした理由は、好きなことよりできることを重視する人程、「AI にはできないが自分にはできること」を踏まえた仕事選びができると考えたからである。

研究仮説は、「好きなことよりできることを重んじる世界観をより強く持っている人の方が、就職活動において自分の強みをより重視した選択をする」とした。

研究意義は、好きなことよりできることを重んじる世界観が仕事を選ぶ一つの基準となることである。この世界観は AI や他人には代替不可能な自分だからこそ生み出せる価値を探すことの助けになるため、自分の存在意義や自分が適材適所な環境に身を置くための基準として機能するのではないかと考える。なお、「AI にはできるが自分にはできないこと」を理解できる人の方が、AI を効果的に生活に取り入れることができるため、この世界観はこれから生きる我々が注目すべきものであるとも考えられる。この点は本研究の本筋とは関係ないが、この世界観が注目を浴びることは副次的な研究意義として挙げられる。

ここで世界観とは、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関する認識、感情、判断に関する基礎的な仮定と枠組み」(Hiebert, 2008 の邦訳, 大垣・田中, 2018, p.210)と定義する。

2. 研究方法

Google Form を利用してアンケートを作成し、Instagram 等の SNS やアンケート集計サイトを通じて拡散し、回答を集めた。集計期間は 2023 年 8 月 20 日から 9 月 3 日の 14 日間で、幅広い年齢層から 185 件の有効回答を得た。本調査の対象は就職活動経験者であるため、アンケートの冒頭には就職活動の経験の有無に関する統制質問を設定した。また、世界観について問うものが質問 1~5、経済行動について問うものが質問 6~10 であり、いずれも「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 6 段階で回答を作成した。以上のアンケートの回答をもとに数値を設定し、単回帰分析を行った。

3. 研究結果

表1にはアンケート結果から得られた平均、標準偏差、最小値、最大値を含む記述統計量を記載する。数値は少数第5位を四捨五入している。全ての質問において最大値または最小値に近い平均値はないため、大きな偏りは見られなかったと言える。また以下の表2には有意な結果が得られたもののみを示す。

<表1> 記述統計量

	最大	最小	平均	標準偏差
Q1(世界観)	6	1	2.9189	1.1573
Q2(世界観)	6	1	2.3027	1.0579
Q3(世界観)	5	1	2.8865	1.1019
Q4(世界観)	6	1	3.5622	1.2510
Q5(世界観)	6	1	4.0757	1.3655
Q6(経済行動)	6	1	2.3784	1.0793
Q7(経済行動)	6	1	3.1027	1.4389
Q8(経済行動)	6	1	2.9459	1.1934
Q9(経済行動)	6	1	3.0378	1.2362
Q10(経済行動)	6	1	2.8541	1.3215

<表2> 回帰分析

被説明変数(経済行動)	説明変数(世界観)	係数	P 値
Q1. 自分の能力を活かせる職場を希望する・希望していた	Q8.好きなことはなんでもやる	0.16893681	0.01889823**
	Q9.できることを好きになりたい	-0.1462736	0.02104758**

Q2. 趣味や好きなことに繋がる仕事に就こうとしている・就こうとしていた	Q8. 好きなことはなんでもやる	0.44144968	2.5258E-06***
	Q10. 能力より好きを優先して体育会に入る	0.16107751	0.03778443**
Q3. 業種が選べる状況にある時、「好きな仕事をしている業種」と「自分が強みを活かして貢献できる業種」だったら後者を選ぶ・選ぶうとしていた	Q6. 好きなことよりできることを重視	0.24291012	0.00124672***
	Q7. 自分にできるか考える	0.24644946	0.00281127***
	Q9. できることを好きになりたい	0.21973714	0.00160795***
Q4. 「とても好きだけど、得意かどうかはわからない仕事」と「そこまで好きではないけど、得意であることがわかってる仕事」だったら後者を選ぶ・選ぶうとしていた	Q6. 好きなことよりできることを重視	0.23232984	0.0029404***
	Q7. 自分にできるか考える	0.28921261	0.00068265***
	Q8. 好きなことはなんでもやる	-0.1879001	0.02268937**
	Q9. できることを好きになりたい	0.25925995	0.00030894***
	Q10. 能力より好きを優先して体育会に入る	-0.1754787	0.00820453***
Q5. あなたはある企業の仕事がとても好きだが、その企業で必要とされる学力・思考力などに不安がある。この時、あなたはその企業を受けるか。	Q8. 好きなことはなんでもやる	0.24012129	0.00628423***
	Q9. できることを好きになりたい	-0.199705	0.00995629***
	Q10. 能力より好きを優先して体育会に入る	0.14797693	0.03771978**

注) 両側検定で***有意水準 1%, **有意水準 5%, *有意水準 10%で有意であることを表す

4. 考察

「好きなことよりできることを重んじる世界観をより強く持っている人の方が、就職活動において自分の強みをより重視した選択をする」という仮説について、10%の両側検定において

対象となる 25 本の単回帰分析のうち、13 本に整合的な結果が得られたため、仮説を支持する結果が得られたと言える。好きなことよりできることを重んじる世界観をより強く持つ人は、自分の強みや能力をより深く理解してそれをより重視し活かす選択をする。一方で、できることよりも好きなことを重視する世界観をより強く持つ人は、自身の興味や関心を仕事の選択においてより優先する。

また、特に経済行動 3,4,5 に関しては、15 本の単回帰分析のうち 11 本の有意な結果が得られており、そのうち 10 本で有意水準 1%での有意性を示している。

次に、有意な結果が得られなかった世界観と経済行動の組み合わせについて、原因とともに追及する。「自分の能力を活かせる職場を希望するか否か」を聞いた経済行動①の質問については、3つの世界観の質問について有意な結果が得られなかった。さらに、残り2つの世界観の質問に関しても係数が逆になっており、整合的な結果が得られなかった。有意な結果が得られなかった要因としては、「できることを強く重んじる人でも、初めての職選びにおいては好きな仕事・やりたい仕事であるかどうかを重視する傾向がある」「そもそも誰も好きかどうかがある」「能力が足りていない仕事には手を出そうとしない」などが考えられる。「趣味や好きなことに繋がる仕事に就こうとしているか否か」を聞いた経済行動②の質問については、3つの世界観の質問について有意な結果が得られなかった。要因としては、「比較対象がないため、有意な結果が出にくい」「福利厚生や年収など、好きやできる以外の判断基準をより重視する人がいる」などが考えられる。「好きな仕事ができる業種」と「強みを活かせる業種」のどちらを優先するかを聞く経済行動③の質問については、2つの世界観の質問について有意な結果が得られなかった。要因として、有意な結果が得られなかった2つの世界観の質問に当てはまる人は、「好きなことは何でもとにかくやる」という人であるため、好きなことを追求することを強みと捉えれば有意な結果が出にくくなると考えた。好きだが能力面で不安がある企業の業務についての仮想質問である経済行動⑤については、2つの世界観の質問について有意な結果が得られなかった。要因として、有意な結果が得られなかった2つの世界観の質問に当てはまる人は、自分にできるかどうかを考え理解することができる人であるため、学力・思考力以外の能力を強みとして捉えている場合は、想定と異なる選択をすることが考えられる。

5. 結論

好きなことよりできることを重んじる世界観と就職活動の関係を分析した結果、研究仮説に整合的な有意な結果を得ることができた。今後の展望として、「好き」や「できる」以外の仕事選びの条件や家庭環境についての質問の追加等を行うことで、好きなことよりできることを重んじる世界観が、仕事選びの判断基準としてふさわしいのかより相対的に検証することができると考えられる。

付録 アンケート質問票

質問 1 好きなことよりできることを重んじるか

質問 2 何かするとき、自分にできるかをまず考えるか

質問 3 好きなことはなんでもやるかどうか

質問 4 「好きなことをできるようになる」よりは「できることを好きになる」ようにしたい

質問 5 あなたが中高でサッカー部に所属しており、サッカーが好きだとする。大学生になり、体育会かサークルのどちらかに入ろうとしているが、体育会に入るには実力不足を感じている。

【それぞれのメリット】

体育会: より本格的にサッカーに関わることができる

サークル: そこまで実力を気にせずにサッカーをすることができる

この状況のとき、あなたは体育会に入るか？

質問 6 自分の能力を活かせる職場を希望する・希望していた

質問 7 趣味や好きなことに繋がる仕事に就こうとしている・就こうとしていた

質問 8 業種が選べる状況にある時、「好きな仕事をしている業種」と「自分が強みを活かして貢献できる業種」だったら後者を選ぶ・選ぼうとしていた

質問 9 「とても好きだけど、得意かどうかはわからない仕事」と「そこまで好きではないけど、得意であることがわかっている仕事」だったら後者を選ぶ・選ぼうとしていた

質問 10 あなたはある企業の仕事がとても好きですが、その企業で必要とされる学力・思考力などに不安があります。この時、あなたはその企業を受けるか。(当時の自分ならどうしたかで教えてください)

引用文献

大垣昌夫,田中沙織, 2018. 行動経済学新版, 有斐閣, 東京.

Hiebert, P. G. 2008, Transforming Worldviews: An Anthropological Understanding of How People Change, Baker Academic.